

# 平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

学校法人立花学園立花高等学校

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

|                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| <input type="checkbox"/> | Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携） |
| <input type="checkbox"/> | Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）        |
| <input type="radio"/>    | Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）             |

②モデル校の一覧

| 設置者      | 学校種  | 課程又は障害種 | 学校名（ふりがなを付すこと）       |
|----------|------|---------|----------------------|
| 学校法人立花学園 | 高等学校 | 全日制     | 立花高等学校（たちばなこうとうがっこう） |

### 2 研究課題

発達障害の特性を生かした就労支援の在り方 ～普通科高校における社会福祉法人及び企業等との連携によるデュアルシステムの構築を目指して～

### 3 研究の概要

①モデル地域における取組

- （ア）モデル校の関係機関等による就労支援ネットワークの構築
- （イ）発達障害に対する理解啓発推進研修会の実施
- （ウ）地域の特別支援学校との連携

②モデル校における取組

- （ア）就労支援コーディネーターの配置
- （イ）障害者就労及び発達障害についての研修
- （ウ）キャリア教育・職業教育の改善充実
- （エ）デュアルシステムの構築
- （オ）発達障害についての啓発活動
- （カ）卒業生の追跡調査

### 4 研究の成果

①モデル地域における取組

- （ア）モデル校の関係機関等による就労支援ネットワーク構築について  
社会福祉法人「野の花学園」等社会福祉事業所、企業、病院、地域自治会等と毎月の定例会議を行ない、ネットワークを構築した。
- （イ）発達障害に対する理解啓発推進研修会の実施について  
平成27年12月12日に、本校が実行委員を務める「高校生セーフティーネット研究会」が主催となり「第6回特別支援教育（不登校・学習支援・就労支援・高大接続）に

関するセミナー」を実施した。389名の参加があった。

(ウ) 地域の特別支援学校との連携について

「高校生セーフティーネット研究会」主催の「第6回特別支援教育（不登校・学習支援・就労支援・高大接続）に関するセミナー」に福岡県立小郡特別支援学校の教諭を分科会の講師に招聘した。また研修を通して公立と私立の連携を深めることもできた。

②モデル校における取組

(ア) 就労支援コーディネーターの配置について

就労支援コーディネーターを配置により、発達障害のある生徒の職場体験学習の受入事業所開拓や3年生の就労支援活動がスムーズに行えた。

(イ) 障害者就労及び発達障害についての研修について

先進地視察として大阪市立中央高等学校、学校法人神須学園大阪技能専門学校、京都市立向島二の丸小学校、大阪市こども相談センター、学校法人松風学園彦根総合高等学校、宮川医療少年院、高知県立伊野商業高等学校の視察を行った。

(ウ) キャリア教育・職業教育の改善充実について

各学年では職場体験学習に向けて計画的に進路学習などを進めたが、改善すべき点はまだ多々あるので来年度はさらに「3年間の系統立てた計画」を充実する必要がある。

(エ) デュアルシステムの構築

昨年度の改善点を修正しながらデュアルシステムの構築を行っている。現在はまだ2年目だが安定したシステムとなっている。

(オ) 発達障害についての啓発活動

毎週金曜日の作業学習で地域の方々と積極的に関わり様々な取組を実施した。来年度も更に充実発展させるべく毎月地域の方々と定例会議が行っている。

(カ) 卒業生の追跡調査

就職をしたもの上手く適応できなかった卒業生に対し就労支援コーディネーターを中心とした進路指導室のチームがフォローを行っている。

## 5 課題と今後の方策

1 障害者就労及び発達障害者についての研修で深めた知識やスキルを本校に適した方法で取り入れていくことはさらに研究が必要である。

2 計画的・組織的・系統的な進路学習の実施についての課題は、単年度では計画的・組織的に進路学習が実施されているが、3年間という視点から見るとまだ系統立てた計画に改善が必要である。

後は組織的な動きに現在以上に動きがでてくれば一人の生徒を多角度からとらえられ多角度からの支援が可能となる。生徒の成長がさらに期待できる。

3 職業アセスメントシステムが構築されていない。職場体験学習のマッチングでは保護者、生徒本人、担任との三者で決めている。ある程度方向性の決まっているケースではうまくマッチングをするが、「やりたいことがわからない」や「どちらでもない」とい

うケースでは、ものさしとなるアセスメントの結果があると適切なマッチングを行うことができる。

- 4 職場体験学習では昨年度に比べるとミスマッチの報告は減っている。おそらく2年目ということもありマッチングを担当する教員のスキルもあがり事業所との連絡相談などもスムーズに行われたためだと思われる。しかし、個々のケースで見ると職場体験学習の経験がその後の学校生活で生かされたり実際の就職活動でいかされたりするケースは少ない。今後はシステム全体が完全に構築できれば、一人ひとりの活動内容の充実を図る必要がある。それには生徒に行う事前指導・事後指導の充実をはかることや生徒一人一人のニーズをしっかりとつかむ分析が必要である。